

島嶼におけるソーシャル・キャピタルの課題

— 要援護高齢者の支援を通して —

○ 県立広島大学大学院 原田 幸男 (会員番号 010351)

キーワード3つ：島嶼、互助、ソーシャル・キャピタル

1. 研究目的

本研究の目的は、島嶼高齢者の健康とソーシャル・キャピタル(以下 SC)に関する研究の動向を整理し、今後の研究課題を明らかにすることである。島嶼では、古くから近隣を軸とした近所付き合いや助け合いが、頻繁におこなわれてきた。近年、このような社会的なつながりを SC として概念化し、健康との関連を検証する動きが高まっている。

SC とは、Putnam が提唱した定義であり、「調整された諸活動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる。他者との信頼関係、互酬性の規範、ネットワークといった社会組織の特徴」とされる。(Putnam, 1993)日本では、日本老年学的評価研究(JAGES)が、高齢者を対象とした調査をし、同じ回答者を追跡するデータをとるようになって、SC の健康への影響をよりデータでとれるようになった。一方、批判的な意見も多く、SC 定義と測定法が定まっていないことや、SC を構成する多様な下位概念の問題も存在しているが、国内外で少しずつ介入研究が進んでいる。(相田, 2014)本研究では、Putnam が提唱した社会的凝集性に基づいた定義を用いて、健康と SC に関する知見をまとめていくことにする。

2. 研究の視点および方法

本研究の方法は、文献研究である。島嶼高齢者の健康と SC に関する文献収集にあたり CiNii Research、医学中央雑誌 Web、JSTAGE のデータベースを用いて学術論文を中心に、島嶼、互助、SC などの組み合わせで検索した。

3. 倫理的配慮

本研究は、先行研究を分析するものであり、人を対象とする研究ではないが、「日本社会福祉学会研究倫理規定」にもとづく研究ガイドラインを遵守し実施している。本発表に関連して、開示すべき COI 関係にある企業等はない。

4. 研究結果

データベースから 152 件の論文が抽出された。分析対象となった文献は、関連しないものを除外し、最終的に 6 件を選定した。

島嶼高齢者の健康と SC に関する文献を整理した結果、以下のとおりであった。

1. 島嶼高齢者は、血縁関係が基盤に社会的ネットワークを広げ、長く居住することによって他者との信頼関係を構築している。(木下, 2013) (1)「誇り」が定住意識に有意に影響を与えている、(2)「互酬性」因子が「誇り」、「充実感」と有意に相関が認められた、(3)「誇り」と「充実感」との間には有意に相関が認められた。誇りの重要性が明らかになり、今後の定住移住促進政策に示唆を与えると考えられる。(白石, 2013) しかし、島嶼の人口流出により、地縁的な組織活動も難しいことが推察され、要支援高齢者の SC や生活機能にも悪影響を及ぼす可能性がある。

2. 社会的ネットワークでは、家族や親類などの血縁関係が基盤にあるだけに、他の地域からの移住者には、都市の人より関心が少ないことがわかった。また、生活機能の信頼も低かった。(井上, 2018) ただし、移住者が移住し 11 年以上になると、一般的信頼度への変化が見られた。(加藤, 2023)

3. 人々をつながり構築していく、ひとつの課題解決方法として、近年、農作業が農村の高齢者の身体活動や食事、近所づきあい等に好ましい影響を与えていること(農林水産省, 2020)が報告されている。暮らしの中で人々と結びつく手段であり、老いと向き合うことを通して、身体機能を維持する手段となり、集落を守ることで自分らしく生きることにつながっていた。こうした日常生活における能動的活動や、その中にある社会的サポートの提供および他者と喜びを分かち合う経験は、高齢者の健康に好ましい影響を与えていることがわかった。(吉村, 2021)

5. 考察

島嶼高齢者の健康と SC に関する研究の動向を整理した結果、島嶼高齢者についての研究はほとんどなく、研究調査方法としては、アンケート調査、関係者への聞き取りといった内容を確認できた。本研究の文献レビューでは、SC の肯定的側面に着目した文献がほとんどであった。特に SC を活用した健康増進に寄与していると評価する文献が多いことが示唆された。

文献 農林水産省(2020)

Putnam (1993) 『Making Democracy Work』

相田 潤(2014) ソーシャル・キャピタルと健康格差『医療と社会』24(1)

木下香織(2013) 島嶼部に生活する高齢者のソーシャル・キャピタルと居住期間との関係『インターナショナル』12(2)

白石 絢也(2013) 中山間地域と島嶼地域における「地域力」の構造分析『社会文化論集』9

井上 高博(2018) 離島在住の高齢者におけるソーシャル・キャピタルと生活機能の特徴『日本地域看護学会誌』21(3)

加藤 潤三(2023) 地方移住における移住者の適応および地元住民の受容とソーシャル・キャピタルとの関連—島嶼地域沖縄における地方移住—『島嶼地域科学』4, 1-17

吉村 隆(2021) 農村高齢者が伝統野菜をつくる意味—限界集落でただ 1 人栽培を続けることと健康との関連—『日農医誌』70(1), 85-91